



- 辻堂グリーン回廊**
 辻堂アライン回廊は、辻堂地区内各地域の自然環境を保全しながら歩きながら、四季折々の景色を堪能できる回廊です。回廊の延長は約3.5kmです。この回廊は、地域の活性化に貢献しています。
- 辻堂地下道駅前公園
 - 海浜公園通り
 - 辻堂浜公園
 - 海浜海岸サイクリングロード
 - 引越川緑道
 - 引越川海浜緑道(1)
 - 大船丸公園
 - 宝塚海
 - 引越川(海引越川)海浜の森歩道橋
 - 宝塚海・高砂神社
 - 高砂神社
 - 辻堂地下道駅前公園

辻堂地区略年表

1868 (1868)	開港
1878 (1878)	開港大船丸中継所、辻堂駅、引越川橋の架設
1888 (1888)	引越川の改修工事完了。現在の流れとほぼ同等の深さ(国道134号線)付近、大船丸開港大船丸引越川(辻堂海浜(辻堂駅)と引越川)の架設
1898 (1898)	5年計画の築港
1908 (1908)	磯浜に市制が敷かれ
1918 (1918)	辻堂国民学校(現市立辻堂小学校)開校
1928 (1928)	市立南山中学校開校
1938 (1938)	江の島線開業(134号線)も運行される
1948 (1948)	磯浜市立辻堂支所(現市立辻堂支所)開設(引越川の橋)も架設(辻堂支所開設)
1958 (1958)	市立磯浜中学校開校
1968 (1968)	アライン(辻堂海浜)が完成される
1978 (1978)	市立引越川中学校開校

辻堂名所散策

南に面する海岸が広がる、サーフィンを楽しむ人で年中にぎわっており、車には引越川が海まで縁取られており、サイクリング、ジョギング、散歩などのコースとして親しまれています。海岸線、引越川とともに公園が整備され、一帯に開放的な雰囲気を醸成しています。また、磯浜神社、点在する松もあり、身近な場所に水とみどりのある環境となっています。

辻堂地区略年表

大正

- 5年(1916) 国鉄辻堂駅開設
- 12年(1923) 関東大震災で明治小学校、辻堂駅、日の出橋等が倒壊

昭和

- 9年(1934) 引地川の改修工事が終り、現在の流れとなる
- 11年(1936) 遊歩道路(国道134号線)片瀬、大磯間開通と同時に昭和通り(辻堂停車場辻堂線)も浜見山まで開通
- 12年(1937) 太平台通り開通
- 15年(1940) 藤沢に市制が敷かれる
- 20年(1945) 辻堂国民学校(現市立辻堂小学校)開校
- 22年(1947) 市立明治中学校開校
- 24年(1949) 江の島鎌倉観光バス辻堂駅からも運行される
- 26年(1951) 藤沢市役所辻堂支所(現明治市民センター・公民館の前身)、消防署辻堂分署開設
- 31年(1956) 市立湘洋中学校開校
アメリカ軍辻堂演習場が返還される
- 34年(1959) 市立八松小学校開校
- 36年(1961) 相模工業大学付属高等学校(現湘南工科大学付属高等学校)開校
- 37年(1962) 市立白浜養護学校開校
(鵠洋小学校から移転)
- 38年(1963) 市立辻堂青少年会館開館、相模工業大学開校
(現湘南工科大学)
- 39年(1964) 辻堂南部下水処理場(現辻堂浄化センター)運転開始
市立高砂小学校開校
日本住宅公団辻堂団地の入居開始

平成

- 42年(1967) 市立高砂保育園開園
- 45年(1970) 市立浜見小学校開校
(高砂小学校より学区分割)
- 46年(1971) 南部学校給食センター開設
(南部学校給食合同調理場に改称、平成4年廃場、平成7年解体)
- 48年(1973) 市立高浜中学校開校
- 50年(1975) みどり普及センター開園(辻堂太平台)
- 51年(1976) 辻堂南部市民の家開所
- 52年(1977) 辻堂駅南北自由通路開設
- 53年(1978) 辻堂市民センター(公民館)開所
- 56年(1981) 辻堂市民の家開所
- 5年 (1993) 辻堂市民図書館開館
- 6年 (1994) 湘南辻堂地下道開通
- 8年 (1996) 辻堂駅80周年記念式典開催
- 10年 (1998) 辻堂東海岸市民の家開所
辻堂海浜公園通り(別名辻堂南海岸線)開通
- 12年 (2000) 諏訪神社奉納人形山車復活
- 14年 (2002) 辻堂砂山市民の家開所
- 19年 (2007) 第1回湘南国際マラソン開催
(市内をスタート・ゴール)
- 21年 (2009) 辻堂駅北口で湘南C-X(シークロス)まちびらき
パナソニック藤沢工場閉鎖
湘南工科大学と連携等協力協定を締結
- 22年 (2010) 市制70周年記念事業健康駅伝開催

辻堂 旧跡 探訪

辻堂の地名と歴史

辻堂という地名が、いつ頃からおこったものかは諸説があり定かではありませんが、辻に御堂があってそう呼ばれるようになったことはまちがいないようです。

その御堂の位置は、周辺に旧家が残り、旧鎌倉街道と村の道との交差点であったことから、宝泉寺（俗に南の寺）であろうという説が有力になっています。

辻堂という名称は、文献では小田原景所領役帳に記されたものが現存する最古のもので永祿年間（1558～1570）にまでさかのぼります。

現在も辻堂には旧道が続き、東・西・南・北の四つの町内に人形山車を保存伝承していにしへの面影を残しています。



西町
八幡太郎義家
(ハチマンタロウヨシイ)



北町
神功皇后
(ジングウコウゴウ)



東町
源頼朝
(ミナモトノヨリトモ)



南町
武内宿禰
(タケノウチノスクネ)

1 JR辻堂駅

MAP
B-1

明治20年(1887)7月11日に横浜～国府津間開通。
大正5年(1916)12月1日に辻堂停車場(駅)ができて、人の乗り降りができるようになりました。
駅開設当時の一日平均の乗車人員は約200人とわれています。
地元の方が費用の全額を負担して完成を見た、日本で最初の請願駅です。



2 地藏堂

MAP
C-1

東海道線辻堂駅羽鳥踏切(現在この踏切は廃止)の、辻堂側にお地藏さまが安置されています。
大正末頃、この踏切で家族を事故で亡くした老婆が、毎日踏切脇で供養をしていましたが、突然その老婆の姿を見ることがなくなりました。神谷三吉、トミ夫妻がこの事に気付き老婆を気の毒に思い、相談して老婆家族の供養のため、お地藏さままつりしました。以来、お地藏さまは休むことなく見守っていて下さいます。



3 源頼朝落馬地

MAP
B-1



建久9年(1198)12月27日
「右大将源頼朝公、相模川の橋供養に出て還らせ給ひけるに、八的ヶ原(ヤツマトガハラ)と云う所で、亡ばされし源氏義広、義経、行家己下の人々の怨霊現じて、將軍に目を見合せ」その瞬間、頼朝公は落馬したとも記されていますが、本当のところは頼朝公だけが知るところです。現代医学では、クモ膜下出血による落馬ではないかと云われています。建久10年(1199)1月13日薨去(コウキョ)53歳。

4 熊の森権現・西行の歌碑

MAP
C-1



文治3年(1187)畠山重忠が源頼朝の怒りにふれその職をとかれようとしたところを千葉胤正(たねまさ)のとりなしで許され、その後敬神の念が強くなり、そのあらわしとして塔を奉納したと伝えられています。

右側にある石碑は西行の歌碑で、西行法師が文治2年(1186)東大寺再建のための勧進行脚の折、ここにあった根上がりの松に腰掛けて詠んだ句とされる「集松のくずのしげみに妻こめて となみが原に社鹿鳴くなり」と刻まれています。

5 八幡神社

MAP
C-2



地元の人たちに西町の八幡様として崇敬されています。勧請年月日は不詳ですが、棟札に「奉造宮正八幡一社、干時文化9年(1812)申夏五月吉日」の銘があります。境内は地積のわりには、老樹が多く茂り近所の子供の遊び場となっています。

祭神 品陀分命(ホンダワケノミコト)
社殿 切妻造

6 西町 馬頭観音

MAP
C-2



昭和4年(1929)に創建されました。宝冠を馬の頭に頂き3つの顔があるもの、馬頭は一切の魔をうちふせると云います。

六道の衆生(シュジョウ)を済度(サイド)する六つの観音(聖観音、千手観音、如意輪観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音)の一つです。

7 八森稲荷神社

MAP
C-2



西町のお稲荷さまとよばれる。元禄の頃新田開発が整った以降、各所にて稲荷社が創建されました。

祭神の宇迦之御魂大神は、五穀豊穡(ゴコクホウジョウ)と養蚕(ヨウサン)などを司る女神です。

境内には「モクサン」という大樹が茂り、子供の遊び場所になっています。

祭神 宇迦之御魂大神(ウガノミタマノオオカミ)

8 鉄板と下瀬火薬

MAP
D-2



明治21年(1888)に旧海軍技手の下瀬雅充が、ドイツから持ち帰った新火薬を大砲を使って、辻堂海岸で試射しました。試射は成功し、「下瀬火薬」と命名。のちの日露戦争で実戦に使用され、その威力で威名をはせました。試射には、何枚かの鉄板が標的や砲台に使用されましたが、そのうちの一枚といわれています。この鉄板は八森稲荷神社の境内に保存されています。

9 白山神社(三島神社)

MAP
D-2

木立に囲まれたこの社には白山神社と三島神社が合祀されています。

地元では白山稲荷と呼ばれています。三島明神の権礼に「安永3年(1774)」と記され、「甲午大初秋7月大吉日本願主様井太良右衛門、松平土佐守家中寿慶」の銘があります。

例祭日は7月25日。この神社の下に大きな石があり、この石を動かしたりすると眼がつぶれると云われ、誰も悪戯をする人はいませんでした。

祭神 久久理姫命(ククリヒメノミコト)



10 宝泉寺

MAP
D-2

俗に「南の寺」と呼ばれ海龍山観音院と号し、十一面観音を本尊としています。建久年間(1190~1199)頃、源頼朝の勧請により創建されたと伝えられています。

大山詣での行者はその帰り道に南の寺を真言通場として参詣しないと「縁起」が悪いとされ、毎年夏の大山詣での時期は光明真言道から入って参詣に来る白衣の行者で、昼夜もわからないほどのぎやかさでした。

宗派 真言宗



11 諏訪神社

MAP
D-2

創建は平治年間(1159~1160)と云われるが定かではない。寛永8年(1631)火災により、社殿を焼失。寛永15年(1638)3月保々岩見守によって再建されました。文政7年(1824)に再度焼失しましたが、翌年(文政8年)に再建。大正12年の関東大震災でも倒壊しましたが、翌年速やかに復旧されています。

現在の本殿は平成12年(2000)に再建されました。

祭神 建御名方神(タケミナカタノカミ)

八坂刀売神(ヤサカトメノカミ)



12 第六天

MAP
D-2

元々神仏習合の時代に第六天魔王を祀る神社として創建されましたが、明治の神仏分離の際、神世七代(カミノナナヨ)の第6代の面足命(オモダルノミコト)に祭神を変更され、全国にわたり多くが祭られています。

古くは第六天神又は、単に第六天と称しました。

明治41年(1908)7月に再建され、現在の地に移されました。(現在は個人屋敷内)

祭神 於母陀流神(オモダルノカミ)



13 御霊社

MAP
D-3

辻堂の開墾田(カイコンデン)が始められた元禄の頃、名主吉田平太夫が率先して、字久根下(アザクネジタ)に田が最初に作られました。以後順次開墾され、豊作を祈って稲荷社が奉られました。

創建は宝暦12年(1762)時の名主、吉田次郎兵衛でした。この社は別名南の「シヤクジイさま」と呼ばれています。

祭神 神産霊神(カミスビノカミ) 高産霊神(タカスビノカミ)

社殿 木造切妻 創建 宝暦12年



14 社宮神(田畑神社)

MAP
D-2


創建は古く定かではありません。「田畑御縄打納めの時」に「田畑明神社付近に逆さ葎(アシ)生ず」(相模風土記)と記されています。


田畑神社は土地の人は田畑様(デンバクさま)と呼んでいて、宇治川の戦陣の佐々木高綱に関する逆さ葎のいわれが残されています。

祭神 大比理女神(オオヒルメノカミ)

例祭日 7月25日





15 西ノ道祖神 


16 南ノ道祖神 

東西南北の町内に一つずつ道祖神があります。いずれも村はずれの村の入り口にあり、道の悪霊を防ぐ旅人の安全を守る神でした。その後「道祖神=さえの神」に統合されたようです。「さえの神」とは禍が村に入ってこないように守ってくださる神様です。
現在は西の道祖神だけが元の場所に安置されていますが、他は町内会館庭内に移設され保存されています。
毎年1月に祭礼が行われており、現在はサイト祭(ダンゴ焼)も一緒に行われています。



17 東ノ道祖神 

18 北ノ道祖神 

20 子の権現神社 


種礼によれば、社殿造営は文久元年(1861)12月29日となっています。樹木が多く、茂みの中に子の権現様が祭られています。以前から脚の病気には靈験あらたかといわれています。大勢の人が願いをかけて、21日間の宮参りをし満願の詣でをすると、その後は順調に回復したので、お礼に朱塗りの鳥居を寄進したと云われています。昭和20年以前は入口から本殿まで寄進の鳥居がトンネルの様でした。
祭神 久遠延彦命(クエンノビヒコノミコト)



21 阿弥陀堂 

村内の念仏信者によって建立されました。阿弥陀堂は浄土宗流で、仏や菩薩の住む、三毒五濁のない清浄な世界です。四方ご緒仏の浄土があるとされていますが、一般には阿弥陀仏の西方極楽浄土です。法然は浄土の教えを広め、親鸞に受け渡し、世に広めました。
創設 慶長元年(1596)
宗派 浄土宗



19 八松稻荷神社 

創建は、「皇国地誌」には「里伝によると文治年間(1185~1190)の勧請」とあります。名前の由来としては、古くは辻堂地域一帯が八松原(ヤツマトガハラ)と称されていたことが「源平盛衰記」や「平家物語」で知られています。
昭和の初期までは、初午の稻荷講にお神楽(カグラ)を奉納し、露天商が軒を並べるなどの賑わいを見せていました。現社殿は平成12年に諏訪神社の旧本殿を移築したものです。
祭神 宇迦之御魂神(ウガノミタマノカミ)



22 日枝神社 

山王社と称し、創建は文久元年(1861)で、境内に北町道祖神(寛政元年(1789))があります。この道祖神は、北町の別の場所より移動されたものです。現在の社殿は平成22年に建てかえられました。
祭神 大山昨比命(オオヤマクヒノミコト)
国常立神(クニトコタチカミ)
足仲彦尊(タラナカヒコノミコト)
例祭日 9月15日 社殿 切妻造



23 天王社(天王山)

MAP
E-1

天王山は、宝珠寺の傘下にありましたが、明治6年(1873)神仏分離政策によって分かれました。昭和初期まで神輿が奉られ、毎年7月25日に町中をねり歩きました。神輿は現在諏訪神社に奉られています。

祭神 御嶽山権現(ミタケヤマゴンゲン)
長崎大明神(ナガサキダイミョウジン)
大日大聖不動明王(ダイニチタイショウブドウミョウオウ)



26 木又地蔵

MAP
E-5

砂丘地帯だった辻堂は、ひと風吹けば田畑や葉落も砂で埋まってしまうため、防砂林をつくる必要がありました。明治初期から末期まで、落合又五郎さんが本業も投げ出し苗を一生かけて植え続け、その保護に努めました。当時は奇人扱いされていましたが、後世の人達はその功績に感謝してお地藏様を建て「木又地蔵」と名づけました。今も「木又地蔵」にはお供え物が置かれ、地元の人から親しまれ大切にされています。



24 宝珠寺

MAP
D-1

俗に「北の寺」と呼ばれ、八松山明王院と号し、真言宗不動明王を本尊としています。

源頼朝の勧請の寺とされ、文治年間(1185~1190)に元朝が開山したと伝えられています。

境内には多数の石造物があり、五つある庚申塔のうち、寛文6年(1666)のものは市指定民俗文化財です。明治10年に辻堂学校が開校されるまで、この寺で教育が行われました。

宗派 真言宗



27 八大龍王

MAP
D-6

辻堂海岸で漁が始まったころ、海的神様(大漁と安全航海祈願)として祀られ、現在は漁業組合が管理しています。例大祭は毎年2月2日に行われ竜宮祭りと呼ばれています。



25 寛文六年庚申供養塔

MAP
D-1

庚申信仰は、十干・十二支の組合せによって60日に一度めぐってくる「庚申の日」に、その夜眠らずに過ごして無病・息災・長寿を願う信仰です。由来は中国の道教の教えで、江戸時代に仏教を背景に広く庶民に伝わりました。

宝珠寺境内の寛文六年庚申供養塔は、塔前面に花頭櫃を彫り込み、三つの花頭下に遺立銘文を一行ずつ当てて彫り、*おとぼけ。風で親しみやすい3猿像が半肉彫りにされています。藤沢市指定重要文化財(有形民俗文化財)昭和52年4月13日指定。



28 中村記念碑

MAP
A-4

中村武羅夫(1886~1949)は、新潮社の名編集長で長編作家、北海道岩見沢の出身。大正10年頃、辻堂西海岸に居を構えました。

大正12年9月1日の関東大震災で新築したばかりの豪邸も、無惨な姿に変わり果てました。昭和4年3千坪の土地に大豪邸を再度新築。人呼んで「辻堂御殿」と呼ばれていました。昭和43年その邸跡の一部が藤沢市に寄贈され勸久公園となり、「誰だ花園を荒す者は」と刻んだ文学碑があります。



辻堂名所散策

南に湘南海岸が広がり、サーフィンを楽しむ人で年中にぎわっており、東には引地川が南北に走り、緑道も整備されているためサイクリング、ジョギング、散歩などのコースとして親しまれています。海岸線、河川敷ともに公園が整備され、一帯に開放的な雰囲気を感じさせています。また、防砂林、屋敷林、点在する松もあり、身近な場所に水とみどりのある環境となっています。

※景観ベストテンの写真を一部使用しています。

29 国道134号

海沿いにある松の防砂林が、海沿い景観を演出しています。歩道橋は、富士山を望むスポットです。

MAP D-5



34 線路沿いの桜の並木道

電車の中からも見ることができ、桜並木は、通勤する人達の心を和ませる景観です。

MAP E-1



39 サーフィン競技会場

昭和44年(1969)に日本で初めてアマチュアのショートボードサーフィン大会が辻堂海岸で始まりました。それ以降毎年この大会は開かれ、全国から数多くのサーファーが参加します。

MAP D-6



30 クスノキのある海浜公園通り

クスノキを避けてつくられた道路で、茅葺きの家と一緒に見ることができます。

MAP B-2



35 湘南の原風景が残る辻堂海岸

江の島、富士山、鳥帽子岩、サーフィン、地引き網を見ることができ、海岸です。

MAP D-6



40 浜防風とはまひるがお

昭和40年頃まで、辻堂海岸の砂浜には浜防風とはまひるがおの群生が見られました。

浜防風は山菜として食用または漢方薬として利用されました。はまひるがおは5~6月ごろに淡紅色の花を咲かせます。今は両方とも数が少なくなりましたが、砂浜で見つけることができます。



MAP A-6

31 せりだした松と調和した街並み

道路の上にせり出した松が特徴的で、松と調和した街並みを見ることができます。

MAP D-4



36 県立辻堂海浜公園

やしの木の並木道、噴水のモニュメントが特徴的な公園です。四季を通じ様々なイベントが行なわれています。

MAP C-5



41 三ツ又

元禄13年(1691)檢地の44小字(こゑぎ)の中に三ツ又がありました。古道(鎌倉道と光明真言道場道)がここから3本に分かれていたのが由来です。

MAP C-2



32 辻堂駅と駅前商店街

辻堂駅南口の東西には商店街があり、駅前の賑わいを演出しています。

MAP C-1



37 カワセミと花の名所 長久保公園

花々が多くあり、市の鳥であるカワセミの名所と言われている公園です。

MAP C-2



42 辻堂四ツ角

辻堂集落発祥の中心で、旧鎌倉街道の宿場でした。今でもその付近は、宿(しゆく)と云われています。

諏訪神社祭りの時は、この四ツ角に東西南北4基の山車が勢揃いして賑わいます。

MAP D-2



33 旧鎌倉街道と歴史ある街並み

名家が建ち並ぶ風情ある街並みで、諏訪神社、宝泉寺など神社仏閣が多くあります。

MAP D-2



38 浜辺の歌 歌碑

林古溪は幼少の頃、父母に連れられて見た辻堂海岸を想い浮かべて「浜辺の歌」を作詞しました。

MAP E-6



43 地曳網(五郎引網、高網)

地曳網は辻堂の漁の代表的なもので、明治から大正時代には11軒もの網元がありましたが、現在ではこの2軒で、休日は主に観光地曳網を行っています。主な魚はイワシ、シラス、アジ、カマス等です。

MAP D-6

